



横浜市立太尾小学校

# 学校だより

＜ 豊かに学び ともに未来をひらく 太尾の子 ＞

令和3年度10月号

令和3年9月29(30)日発行

## 「かたち」と「中身」

校長 館 雅之

夏休み以降、教室の様子を見ますと「授業が変わってきた」と思います。一人一台の端末を使うようになったことにより、活動が変わってきました。



タブレットに自分の考えを書いています。左の写真は1年生の教室です。慣れたものです。先生がひとつひとつ一斉に操作を指示しなくて

も、自分で試しながら解決しています。電子機器のよさは、すぐにやり直しができること。鉛筆で書いていたならば消しゴムで消さなければいけません。消している間にやり直そうと思っていた思考が途切れてしまうことがあったのではないのでしょうか。

3年生の教室では、自分の考えを書いたノートを撮影していました。そのデータを先生に送ると、先生はみんなが撮影したノートを教室のテレビ画面に映しました。



まるでテレビのクイズ番組のようにみんなのノートが一斉に映し出されました。今までは、先生がある子どものノートを拡大投影機で画面に映すことはありましたが、みんなのノートを順番に紹介しては多くの時間を要してしまいます。それをタブレットであれば瞬時にでき、さらに、子どもが見てみたい友達のノートを自分で選んで見ることもできます。



さらに、友達のノートを見て、「〇〇さんに聞きたい」ということがある人はその子のところに行って、直接説明を聴きま

す。この写真は聞きたい友達のところに行って話を聞いている様子です。

今はタブレットに慣れている時期、何ができるか試している時期と考えることができます。最初は何でもタブレットでしようとする姿が見られましたが、徐々に変わってきました。



5年生では、タブレットとノートを使っていました。考える時のツールとしてタブレットは使うものの、自分の思考を整理したり、表現

したりする時は、鉛筆とノートを使うことが適していたのでしょう。



1年生が夏休み中にも育てた朝顔のつるを使ってリースをつくっていました。手を動かし、つるの感触を確かめ、すぐにはできない「結

ぶ」ことを、何度もやり直したり、友達に聞いたりしながら最後まで自分でやり通す姿がありました。

例えば、調べる時にはFMD（図書室）に行っても一斉に調べる活動を行う。まだ調べきれいなくても「時間になりました。続きは今度ね。」とせざるを得なかった今までの活動が、その子どもがやりたい（必要な）時に、自分で時間を選んではいることができるようになりました。

これらのことから、「全体の中の個」という見方から「個が集まって全体が形成されている」という見方をすることが大切になってくると考えることができないでしょうか。

一方、確かに見える「かたち」は変わったが「中身」はどのように変わったのかはまだこれからの課題でもあります。

100年前の電話と今のスマートフォン、100年前の車と最新の車は「かたち」も「中身」も大きく変わりました。教室の風景は100年前とあまり変わっていなかったかもしれませんが、今、「かたち」は確かに変わってきたように感じます。

「中身」はどのように変わるのでしょうか。